

平成31年2月26日

調査・研修報告書(議員用)

報告者：山田聖三

実施場所：国土交通省

富山県庁、NPO法人しおんの家
NPO法人このゆびと一まれ

実施日：平成31年2月18日
～平成31年2月20日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状など)

国営備北丘陵公園のあり方について、富山型ディサービスの現状についての調査研修を行う。

■参考とすべき事項

主な内容

○国営備北丘陵公園のあり方について

国土交通省都市局公園緑地・景観課国営公園維持係平田政憲係長及び片山壮二公園緑地事業調整官より、国営備北丘陵公園の今後の運営・管理の方針について説明を受ける。

国は、平成32年度までの管理運営の方針等に関する「国営備北丘陵公園管理運営プログラム」を策定し、着実な管理運営を図ることとしている。

特に北入口センターエリアのエントランスセンター国兼を、地域の情報発信の場や地域と公園来園者との交流の拡大による地域活力の向上の場となるよう、今回の社会実験を行っている。

国としては、都市公園法に抵触しない限り、地元の要望に応じていきたいし、使用の制限等をおかけることはない。地元で十分な話し合いをしてもらいたい。

○富山型ディサービスの現状について

富山県厚生部厚生企画課鈴木義治主幹及び地域共生福祉係向谷航主事より、富山県の取り組みについて説明を受ける。

富山型ディサービスとは、高齢者介護施設を核として、障害者や子どもを含め誰でも受け入れ、福祉サービスを提供することである。

「このゆびと一まれ」の開所に始まり、富山県が富山型ディサービス推進特区の指定を受け、指定通所介護事業所での知的障害児(者)の受け入れが可能となった。

こうした「誰もが地域でともに暮らす」(共生)を重視した取り組みが全国展開となり、「とやま型地域共生福祉」としての広がりとなっている。課題としては、規制緩和により福祉サービスの質が低下しないようにすることである。

NPO法人しおんの家を視察し、山田和子代表と意見交換を行う。開設は、スウェーデンで生まれたグループホームにおける認知症介護に感動したのがきっかけで、県内初のグループホームに富山型ディサービスや小規模で多機能なサービスを併設した。

現在は、地域の中での普通の暮らしをめざし、「自然がいっぱい」、「地域共生」、「小規模多機能」をコンセプトに、4つの家で11のサービスを提供している。代表山田和子さんの理念・思いが強く伝わってきた。しかしながら、介護制度と障害者制度両方からの支援を受けるための事務量の多さや煩雑さも強く感じた。

NPO法人このゆびと一まれを視察し、惣万佳代子代表と意見交換を行う。

ちょうど、障害を持った子どもたちが学校から帰ってきて、この施設を利用しているところを視察することができた。みんな笑顔で楽しそうでした。将来、学校を卒業したら、この施設で働くのだという子どももいた。

この施設は、平成5年同じ思いを持つ惣万佳代子代表ら3人の看護師が立ち上げた。富山型サービス始まりの施設で、一つ屋根の下で赤ちゃんからお年寄りまで障害があっても、誰もが気軽にいつでもいつまでも利用できるデイケアハウスである。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

これからの福祉の方向性は、「とやま型地域共生福祉」である。赤ちゃんからお年寄りまで、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で生活が継続できる「共生社会」の実現である。

そのためには、福祉行政の窓口を一本化し共生福祉を進めること及び介護と障害の支援制度の事務処理の簡素化が重要である。

この研修で出会った代表者のしっかりとした理念、スタッフや利用者の笑顔を忘れることはできない。